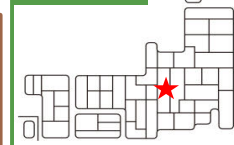


JAぎふの経営理念である「すべては組合員とともに」に基づき、特例子会社として農を基軸とした経営を構築し、地域や企業との連携による特産品の製造などの取組を実施。

特例子会社

岐阜県  
岐阜市

きつかけ

R2年

「地域共生社会の実現に貢献する」という経営理念のもと、障害者をはじめとする全ての人と向き合い、地域に根ざした農業による居場所づくりを目指して取組を開始。

人を耕す

- 保護者面談・定期面談の実施、ジョブコーチ資格取得、有資格者による作業のマニュアル化、関係支援団体との連携等により、多様な働き方を実践し、働きやすい環境を構築。
- ユニバーサル体験農園を活用した農業研修を実施し、社内交流を積極的に行う。
- 岐阜刑務所と連携し、犯罪をした者の出所後就農に向けた農業指導を実施。

地域を耕す

- JAぎふや地域からの依頼で耕作放棄地の草刈りを実施。件数が飛躍的に増大し、収益事業として定着。
- はっぴいマルシェの開催、農業祭やJA収穫祭等への出店、ユニバーサル体験農園の実施、放課後デイサービスへの授業の実施など地域内外の交流の活性化に貢献。

未来を耕す

- 「有機の里」にてJAぎふと有機農業を実践。また、LED人工光栽培による作物の栽培やローゼル栽培による中山間地域農業の活性化など独自の取組を実施。
- 企業と連携し、自社栽培及びJAぎふで扱う規格外の枝豆を「岐阜ずんだ大福」、「清流ずんだシイク」「アチエ(枝豆ピザ)」に加工し、販売。

## 基本情報

設立:R2年 / 農福連携取組開始:R2年

取得認証等:認定農業者(R7年)、ノウフクJAS(R8年)

主な選定表彰:令和6年度岐阜県障害のある人もない人も共に生きる清流の国づくり表彰

取組

成果

平均賃金月額

115,930円(R2)  
→137,866円(R6)

障害者雇用数

5人(R2)  
→17人(R6)

売上高

1,976万円(R2)  
→6,004万円(R6)

農地面積

0.5ha(R2)  
→4.5ha(R6)

成果

- JAぎふ、ぎふ農福連携推進センターと連携し、農家とA型・B型事業所との援農マッチング事業を実施。農家の労働力不足の解消に貢献。
- 岐阜農林高校と連携し、美濃飛騨伝承野菜「まくわうり」を栽培。高校でまくわうりをアイスに加工し、JAぎふ直売所等で販売。皇室に献上。
- 雇用した障害者の中には、プレイングマネージャーに昇格した後、社会福祉士の資格を取得し、一般企業へ就職した事例も確認。

概要

## 主力商品

(農作物)米、まくわうり、玉ねぎ、サツマイモ、マコモダケ等  
(加工品)まめなかな味噌、ハイビスカスティー、ずんだ大福、枝豆ピザ等

## 特徴的な取組

スマート農業、ユニバーサル農園、中間支援、自然栽培 等

体制図

①味噌事業(まめなかな味噌の製造販売)

②農業事業(本巣市真正園場1ha作付け(野菜・イモ・マコモダケ・有機水稲など)、岐阜市有機の里3ha耕作(畑)、ガラス温室再生事業)

③枝豆事業(枝豆むき身⇒セレスを通じて養老軒:岐阜ずんだ大福、ずんだシイク、枝豆ピザ)

④受委託事業(JAぎふ委託事業(清掃、事務、印刷など)草刈り作業受託、イチゴのヘタ取り、帳票押印等事務作業)

⑤直販事業(はっぴいマルシェ販売 毎週、イベント年6回)

⑥農園事業(まるけふあ〜むを通じたユニバーサル体験農園の取り組み、全農、支店食農活動、岐阜県林高校、福祉事業所連携)

受け入れている者

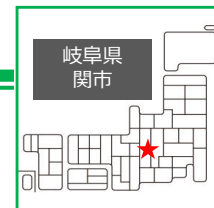
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	○

住所:岐阜県岐阜市司町 37

TEL:080-4052-7604

Mail:68002@jagifu.gjadc.jp

URL:https://www.jagifu.or.jp/wp/archives/130572



福祉事業所として、さといも生産者の組合に加入し、岐阜県特産品の「円空さといも」を生産。また、組合員から手間のかかる調製作業を請け負うことで、組合員1戸当たりの栽培面積の増加に貢献。

### 基本情報

- 所在地：岐阜県関市
- 団体名：株式会社DAI
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022 優秀賞
- 主力商品：円空さといも、黒にんにく、美濃蜜芋（干し芋、焼き芋）
- 取得認証等：ノウフクJAS



円空さといも

### 取組の概要

- 約1haの農地において、にんにく、さつまいも、たまねぎなどを生産。にんにくは黒にんにくに加工するほか、さつまいもは干し芋や焼き芋に加工するなど6次産業化の取組を実施。
- さといも生産者の組合員から岐阜県特産品の「円空さといも」の収穫作業、毛羽取り、選別作業を請け負う。
- 市内の農業者から借り受けたほ場30aで、自社でも円空さといもを栽培。



円空さといもの収穫作業



施設外就労（調製作業）



作業を委託した農家の方々と

### 体制図

【株式会社DAI】

生産管理、農業部、委託請負部

就労継続支援A型/B型事業所「それいゆ」

めぐみの農業協同組合

作業指導、  
工賃調整等

作業請負契約

仲介

岐阜県中濃農林事務所

「生涯現役プロジェクト」  
に参画

中濃里芋生産組合

関市

ふるさと納税返礼品に採用

### 取組の成果

- 岐阜県特産品「円空さといも」の調製作業を請け負うことで、組合員の経営に余裕が生まれ、組合員1戸当たりの栽培面積が15aから20aに増加。
- 丁寧な作業により信頼を得たことで、農地を借りてほしいという依頼が増加し、栽培面積を拡大したことで農産物全体の売上高（加工品を含む）は平成27年の337万円から、令和3年には861万円に増加。
- 岐阜県の就労継続支援A型事業所の平均（令和4年：81,581円）を上回る月10万円以上の賃金を支給される利用者もいる。

所在地 ▶ 岐阜県関市平和通3丁目12番地

連絡先 ▶ TEL：0575-23-1101 E-mail：dai-farm.non@biscuit.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.dai2011.com>

# 【取組のプロセス】

平成23年

利用者の賃金確保のため、野菜を作るだけの農業から移行する必要

## きっかけ

平成23年に愛知県犬山市に株式会社DAIファーム（現：株式会社DAI）を設立し、個人農家と連携して、いちごや菌床椎茸の栽培を実施

平成26年

年間を通して安定した作業を確保する必要

## 社名を株式会社DAIに変更

- 平成26年4月、社名を株式会社DAIに変更。
- 「地域の景観を守る」、「地域の特産品を創生する」、「地域の特産品を守る」という目標を掲げる。

平成28年

J Aめぐみの、岐阜県中濃農林事務所等の支援

## 「地域の特産品を守る」

- 岐阜県関市に事業所を開設するとともに、就労継続支援A型事業所を開設。
- J Aめぐみの、岐阜県中濃農林事務所、中濃里芋生産組合と連携し、地域の特産品「円空さといも」の毛羽取り作業を請け負う。
- 手間のかかる作業を引き受けることで、生産者は栽培面積を拡大することが可能となり、収穫量が減少していた円空さといもの栽培面積が増加。
- 自社でも30aのほ場を借り受け、円空さといもの栽培を始める。



施設外就労（ゆずの収穫）

平成29年

持続可能な地域づくりに参画

## 「地域の景観を守る」、「地域の特産品を創生する」

- 就労継続支援B型事業所を開設。
- 当初は荒廃農地を再生して野菜を栽培していたが、近隣農家が耕作しなくなった農地を借りることで自社の耕作面積が増加（令和3年度末現在、約1ha）。
- 自社で栽培したにんにくやさつまいもなどを加工して販売。また、にんにく加工商品が関市のふるさと納税の返礼品に採用される。



関市「生涯現役プロジェクト」への参画

（さつまいもの収穫）

今後の展望

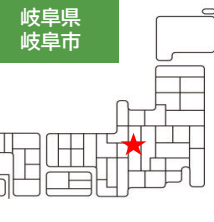
・令和2年に古くなったさといもの毛羽取り機を新調  
・1日あたりの作業量をUPし、毎年増える依頼にも対応  
・令和3年現在、7件の農家からの作業依頼に対応

## 「農福連携」からはじまる「地福連携」の形を創る

- 地域の企業や農家、JA、農林事務所、行政と一体となって課題に取り組むことで、仕事を作り、安心して長く住み続けることのできる地域を創る。
- 地域の担い手として活躍できる機会を拡大し、土と、人と、地域と、仕事と、分断された結びつきを「福祉」を通して再生し、暮らしと経済づくりを支えていく。

生産から加工まで一体的に取り組み、障害者の責任者へのステップアップや正規雇用等を行うことで、安定した雇用と自立支援の仕組みを確立。ICT導入による効率化やミス防止を実現し、経営面積の拡大に寄与。

農林水産業経営体



基本情報

設立:H20年 / 農福連携取組開始:H23年

取得認証等:認定農業者(H22)、6次産業化認定事業者(H24) 有機JAS(R7)

**概要**  
**主力商品**  
 (農作物)米、野菜、果樹  
 (加工品)玄米団子、わらび餅、ドライ菊芋  
**特徴的な取組**  
 有機農業、スマート農業、6次産業化、環境保全型農業 等

きっかけ

H23年

障害者の限定的な就業機会と深刻化する農業後継者不足の課題に対して、農業生産や6次産業化の現場を自立支援と雇用創出の場にしたいたいとの思いから開始。

人を耕す

- 水稻の苗出し・畦畔除草、野菜の播種・出荷、6次産業商品の製造補助など多岐にわたる作業を個性や特性に応じて割り振り、全員が責任と誇りを持って働ける環境を整備。施設外就労の請負報酬も年々増加、安定かつ公平な収入確保を実現。
- 農業・加工業等、2023年から累計10名以上が一般就労へ移行。障がい者が自らの能力を活かして社会に参画し、地域で主体的に生活できる環境づくりを推進。

取組

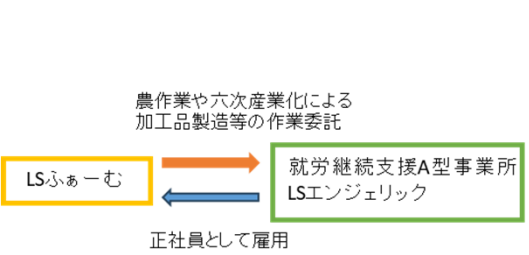
地域を耕す

- 地域企業のイベント等に参加し、自ら作った作物・加工品を自分の言葉で接客することで、地域における農福連携の理解促進と認知拡大に貢献。
- 近隣小学校と連携した水耕農業体験の実施、特別支援学校と連携した農業体験・加工製造の職場実習の受入を通じて、多様な人々が働きやすい地域共生社会のあり方を発信。
- 6次化商品の生協販売を開始し、農福連携ブランドとして付加価値を創出。

未来を耕す

- クボタのスマート農業システム「KSAS(ケイサス)」を導入し、障害者が携帯端末からリアルタイムにデータを確認。クラウド上で作業記録を一元管理し、効率向上とミス防止を実現。
- エアドーム式農業ハウスやICTの活用により、多様な人が安全に働ける農業環境を構築。
- 農外企業と連携し、水田中干しを実施することで、メタン排出削減によるカーボンニュートラルや環境保全型農法を推進。

体制図



受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	○
その他	○

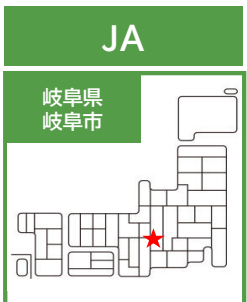
住所:岐阜県岐阜市藪田南1-11-9  
 TEL:058-213-0711  
 Mail:ogawa@ls-farm.com  
 URL:http://www.ls-farm.com/

成果

平均賃金月額	障害者雇用数	農地面積
70,656円(R2) →84,084円(R6)	19人(R2) →19人(R6)	38ha(R2) →44.5ha(R6)

- 障がい者・高齢者・地域住民など多様な人々が関わり合い、挨拶や声援を通じて互いを認め合い、支え合いや地域全体で助け合う意識が広がっており、持続可能な農福モデルを実現。
- 農福連携で労働力が安定し、農地集積や耕作放棄地の再生、農地の有効活用が実現して、経営面積が拡大。
- 丁寧で誠実な作業が評価され、農福連携商品として生協へ出荷。品質と信頼性向上に貢献し、地域美化活動や交流を通じて感謝の声を受け、やりがいと自己肯定感の向上につなげる。

農業分野で障害者が活躍できる場の創出を目指し、直接雇用型の農福連携事業に取り組むことで、障害者のいちご栽培技能及びコミュニケーション能力を高める。



基本情報

設立:S47年 / 農福連携取組開始:R3年

主な選定表彰:全国農業協同組合連合会特別表彰「理事長賞」

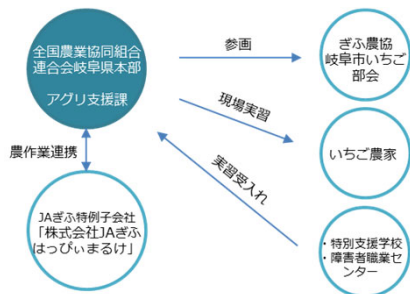
概要

主力商品  
(農作物)いちご

特徴的な取組

岐阜県ブランドいちご「美濃姫」を栽培し、量販店の農福連携特設コーナー等にて販売

体制図



住所:岐阜県岐阜市宇佐南4丁目13番1号

TEL:058-214-2431

Mail:zz\_gf\_agurishien@zennoh.or.jp

URL:https://www.zennoh.or.jp/gf/einou/noufuku.html

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

R3年

少子高齢化による農業分野の人手不足の解消と、SDGsの理念実現を目指し、取組を開始。

取組

人を耕す

- 管理者・職場適応援助者の支援スキル向上に向けて、厚生労働省認定の「企業在籍型職場適応援助者養成講習」や県認定の「岐阜県農業ジョブコーチ」育成講習を受講。
- 定期的な個別面談やメンタルミーティングを実施するとともに精神状態の確認とケアを行い、安定就業に繋げている。
- 通年でいちご栽培に従事する障害者を直接雇用。

地域を耕す

- いちごは岐阜県ブランドいちご「美濃姫」を栽培し、地産地消の取組に貢献。
- 連携先のいちご農家で農作業実習を行い、人材育成と農家への農福連携を促進。
- 特別支援学校や障害者職業センターの実習生を受け入れ、関係機関との連携を強化。

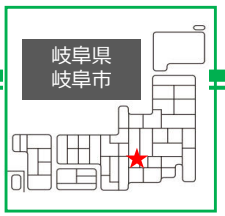
未来を耕す

- 大学との連携を通じた農福連携の在り方や新たな可能性を模索している。
- いちご栽培を通じた農作業受託を受けられる人材の育成をすすめるとともに、地域の農家と連携した農福連携の普及拡大を目指している。

成果

平均賃金(時給)	障害者数	市場出荷パック数	農地面積
860円(R3) →1,070円(R6)	3人(R3) →3人(R6)	5,924個(R3) →18,427個(R6)	5a(R3) →10a(R6)

- 栽培の知識・技術向上に伴い、栽培面積・定植株数が増加。
- 市場出荷パック数が年々増加。
- 農作業実習では普段と異なる環境下で作業を行うことで、自立支援と雇用創出に繋がった。また、受け入れ先の農家からも農福連携に対して前向きな意見が得られた。



地域における障害者等の就労、担い手の確保や地域農業の維持のため、農業者と福祉施設の双方に対し、総合的な支援を実施する岐阜県のワンストップ窓口を担う。

基本情報

- 所在地：岐阜県岐阜市
- 団体名：一般社団法人 岐阜県農畜産公社 「ぎふアグリチャレンジ支援センター」
- 選定表彰：－
- 岐阜県の農福連携ワンストップ窓口
- 農業経営体と福祉事業所との農作業受委託をマッチング
- 岐阜県、農林事務所、社会福祉協議会等と連携し、農福連携の総合的な支援を実施
- 「農福連携推進マニュアル」には、障害者受け入れのポイントや農作業の切り出し、障害者が作業する際の留意点などをわかりやすく図解

取組の概要

- ① 農福連携コーディネーターが、農業者や福祉事業所を個別訪問し、農作業に関する請負契約の締結をマッチング。
- ② 農福連携の現場に農作業指導者を派遣し、円滑な実施を支援。
- ③ 障害者の受入体験を行う農業者に対し、請負報酬又は賃金相当額を助成。
- ④ 障害者を受け入れている農業者及び農業参入した福祉事業所に対し、作業環境の整備に関する費用を助成。
- ⑤ Webサイトに、「農福連携推進マニュアル」、「ノウフク商品カタログ」を掲載。

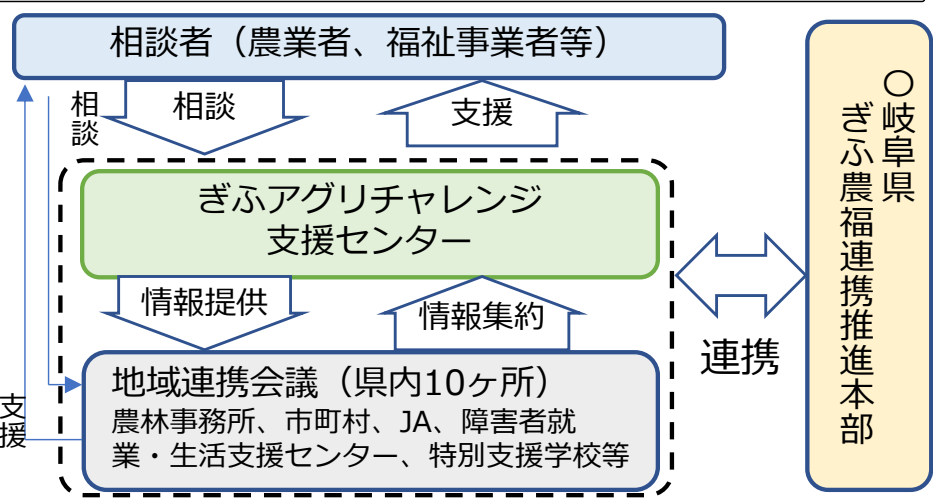


ぎふノウフク商品カタログ

作業請負（さといも収穫）

作業請負（除草）

体制図



取組の成果（令和4年度の結果）

- ① 相談業務 相談件数 106件、訪問件数 20件
- ② マッチング 農作業に関する請負契約の締結 23件
- ③ 農作業指導者の派遣 障害者農業就労支援サポーター登録者 4名、岐阜県農業ジョブコーチ登録者（令和2年：10名、令和3年：9名、令和4年：12名）
- ④ 農業者への助成 活用 5件（受入体験1件、作業環境整備2件、農業参入施設整備2件）
- ⑤ 農業大学校において、障害福祉サービス事業所の職業指導員等に対する栽培技術の指導を実施。

所在地 ▶ 岐阜市藪田南5丁目14番12号（岐阜県シンクタンク庁舎内）  
 連絡先 ▶ TEL:058-215-1503 E-mail:agri-stock@gifu-notiku.com  
 ウェブサイト ▶ <http://www.gifu-notiku.com/>

# 【取組のプロセス】

平成26年

きっかけ

平成26年度頃から、岐阜県が農福連携を推進

## 「ぎふアグリチャレンジ支援センター」を設置

- 就農相談から研修、営農定着までの新規就農者のサポートに加え、移住就農や企業の農業参入を支援する総合支援窓口として設立。
- 就農にかかる農地情報の提供等就農へのアドバイス、資金面の相談や企業の農業参入、農業法人の育成、農福連携など、幅広い分野での多岐にわたる要望に一元的に対応する。

平成29年

## 農福連携のワンストップ窓口として「農福連携推進室」を設置

- 農福連携パンフレット、農福連携推進マニュアル、農福連携事例集などを公表。
- 農作業受委託をマッチング。 ○ 農福連携推進活動事業(助成事業)。
- 障害者農業就労支援サポーターの派遣。

平成30年

## よりきめ細かい推進体制の整備

- 令和2年8月に、農福連携に取り組む農業者等を現場で支援する「岐阜県農業ジョブコーチ」を養成する研修会を開催、派遣事業を創設。
- 令和2年4～11月にかけて、よりきめ細やかな推進体制づくりとして、農林事務所ごとに行行政、支援機関、教育機関を構成員とする農福連携地域連携会議を設置。

令和2年

## 部局横断的に施策を推進

- 令和4年4月に、農業や福祉、教育関係者等が共通認識のもと、横断的かつ計画的に各施策を推進するため、「ぎふ農福連携アクションプラン」を策定。
- 令和4年9月に、知事を本部長として、両副知事、庁内部局長等から構成する推進本部を設置。

令和4年

## さらなる農福連携の推進と理解の醸成

- 農福連携に取り組むための環境整備や農産物のブランド力向上・販路拡大へのサポートによるロールモデルづくりと県内外への情報発信。
- 高齢化や担い手不足といった課題を抱える農業・農村において、多様な担い手の一員として誰もが活躍できる地域共生社会の実現。

今後の展望



作業請負 (クリの青イガ拾い)



雇用 (搾乳)



作業請負 (ハウスの片づけ)

地元での農業参入、農業法人の育成、農福連携など、幅広い分野での多岐にわたる要望に一元的に対応する窓口の必要性

平成29年4月に、岐阜県の外郭団体である一般社団法人岐阜県農畜産公社内に、「ぎふアグリチャレンジ支援センター」を設置

平成30年4月に、同センター内に、農福連携のワンストップ窓口として「農福連携推進室」を設置

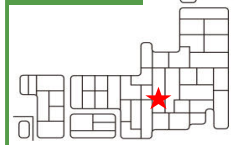
・農福に関する相談  
・マッチング  
・マニュアル公表  
・サポーターの派遣  
・障害者受入体験等の助成などを実施

YouTubeに「のうふくチャンネルぎふ」を開設  
・PR動画「ノウフクが農業と福祉の未来をつくる」  
・農作業動画「グリーンねぎの調製」、「にんにくの根切り」などを公開

農業地域にある特別支援学校として、農福連携の取組を開始。生徒が主体となり、遊休農地等を活用し、生徒が栽培しやすい特色のある「ルビー色の蕎麦」や「イタリア野菜」を生産。

特別支援学校

岐阜県  
岐阜市



きっかけ

R4年

障害を持つ生徒の個性を十分に発揮した農福連携の取組に向けて、岐阜県農福連携推進センターに支援を受けながら、生徒主体の農福連携をスタート。

人を耕す

- 「～恋する蕎麦～初霜ルビー」を製品化。霜が降りる時期までじっくり完熟させ、ポロっと落ちるそばの実を丁寧に手刈りすることで、多くの障害者が関わる事が可能。
- 高付加価値の農産物「イタリア野菜」の生産・販売を通して、子ども達の自信と責任感を創出。

地域を耕す

- 「イタリア野菜」栽培により地域との連携を深めており、本場と同じ懐かしい野菜として県内在住のイタリア人シェフが絶賛し、学校の野菜を使った料理を提供。
- 岐阜古来の製麺技術を採用したことによる「道三めん」のPRや「イタリア野菜」栽培の発信等、地域活性化に貢献。

未来を耕す

- 農業の栽培用アプリ「アグリハブ」を使った、遊休農地等でのルビー色のそば及び「イタリア野菜」の栽培は大きな話題に。
- 種子の提供を受けるなど、県外の企業がサポート。

基本情報

設立:H20年/農福連携取組開始:R4年

取組

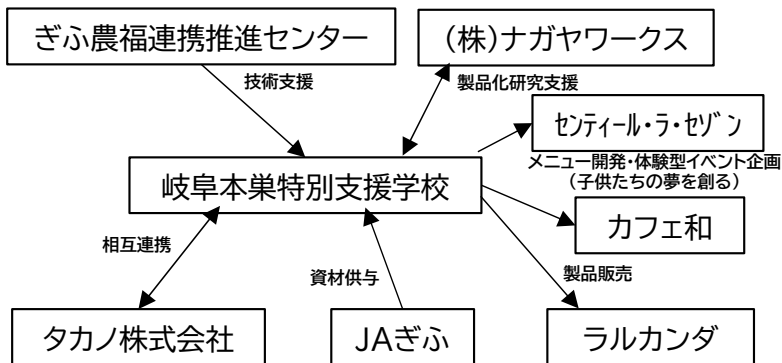
概要

主力商品

(農作物)そば、イタリア野菜

特徴的な取組  
スマート農業

体制図



成果

農産物売上

14.6万円(R4)  
→15.3万円(R5)

農地面積

4a(R4)  
→6a(R5)

連携団体数

0件(R4)  
→4件(R5)

マスコミ情報発信

0件(R4)  
→6件(R5)

- そば及び「イタリア野菜」栽培を通して、障害を持つ子ども達の笑顔がこぼれる素敵な農業時間を創出。
- 一面のルビー色のそば畑は、誰もが足を止める「映えスポット」として話題になり、地域活性化に貢献。
- オンリーワンのストーリーを持つルビー色のそば栽培や、珍しい「イタリア野菜」栽培を通して、子ども達が主体的に農業を行い、地域の新しい担い手として活躍。

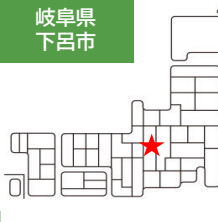
058-239-9712 / p33616@gifu-net.ed.jp

<https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/gifumotosu-sns/>

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

施設外就労として、養蚕の全工程及びいちごハウス内業務を委託。有効資源の活用と伝統産業の復興による地域活性化を図るとともに、雇用の創出や給与・工賃の向上に繋げる取組を実施。

農林水産業経営体



基本情報

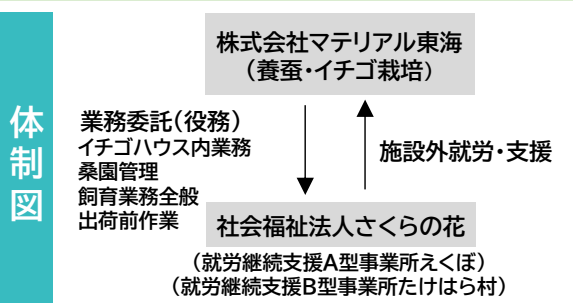
設立:H7年 / 農福連携取組開始:R元年

概要

**主力商品**  
(農作物)いちご  
(畜産物)養蚕:繭として出荷

**特徴的な取組**  
環境保全型農業

体制図



住所:岐阜県下呂市森1329番地3  
TEL:0576-23-3207  
Mail:h-material@m-tokai.co.jp  
URL:https://www.m-tokai.co.jp/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きっかけ

R元年

数多くの作業工程があり人手が必要である養蚕事業とハウスでのいちご栽培において、施設外就労の受け入れを開始。

取組

人を耕す

- 飼育期間や栽培時期が決まっており、利用者は安定した収入を得ることが可能に。
- 数多くの工程があり障害の度合い・就労能力によって作業内容を分担。
- 全工程に関わることで仕事の成果を目の当たりにでき、強い達成感を得ることが可能。
- 責任感をもって取り組めた実績が個人の自信に繋がり、作業にもプラスの影響を与えている。

地域を耕す

- 荒廃農地を開墾して桑園へと生まれ変わらせることで、自社で餌の飼育を可能にし、農地面積を増加させるなど、農地の継承と地域農業の維持に貢献。
- 養蚕経験のある高齢者の雇用を通じて、生きがいづくりにも寄与。
- 市内唯一のいちご狩りができる場所として地域の子ども会をいちご狩りに招待するなど、地域交流の場としても貢献。キッチンカーでのいちごを使ったスムージー販売も実施。

未来を耕す

- 桑園では、利用者が選別した廃棄物を堆肥化し栽培に活用しており、資源のリサイクルを行いながら、伝統産業の復興に生かすとともに、雇用の創出を実現。
- 見学や体験を通じて、施設外就労先や雇用先の開拓に繋げ、利用者の将来への可能性拡大を図る。

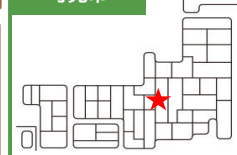
成果

平均賃金月額	平均工賃月額	障害者数	農地面積
122,000円(R2) →130,000円(R6) ※ 農業以外も含む	60,000円(R2) →62,000円 (R6) ※ 農業以外も含む	15人(R2) →20人(R6)	1.7ha(R2) →2.2ha(R6)

- 県内で衰退していく養蚕において、R7春には約12万頭を飼育し、初年度から18倍に増加。県内トップの集荷量を達成。
- 作業中に利用者間で教え合い、助け合うといったコミュニケーション能力の更なる向上を確認。
- 施設で作業をする利用者の姿勢が認められ、他企業から施設外就労の依頼が増加。施設外就労先の開拓に寄与。

中部電力の特例子会社で、農福連携により、イチゴを栽培。他企業とのコラボ商品開発による農産物の付加価値向上を行うほか、廃棄問題、環境問題の解決にも取り組み、地域との共生を推進。

特例子会社

岐阜県  
可児市

## 基本情報

設立:H13年 / 農福連携取組開始:R4年

取得認証等:JGAP(R4)

主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝(2024/東海局)  
コミュニティ・地産地消部門 等

## 概要

## 主力商品

(農作物)イチゴ  
(加工品)イチゴのバウムクーヘン、ジャム

## 特徴的な取組

スマート輸送の構築に向けた物流の実証実験実施

## 体制図

中部電力株式会社(意思決定機関の支配・役員派遣等)⇒特例子会社中電ウイング株式会社(直接雇用)⇐

●コラボ商品開発(米粉を使ったイチゴのバウムクーヘン)・農業交流体験⇐

中電ウイングファーム(イチゴ栽培)⇐

株式会社ココトモファーム(水稲栽培・バウムクーヘン製造販売)⇐

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所:岐阜県可児市矢戸字大善坊59番地

TEL:0574-58-4246

Mail:wing.ichigo@chuden-wing.co.jp

URL:https://www.chuden-wing.co.jp/

## きっかけ

R4年

体力的負担が少なく定年まで従事可能な作業環境を模索した結果、知的障害者の「細かい作業に集中力をもって向き合うことができる」特性が活かされるイチゴの栽培を事業化。

## 人を耕す

- 栽培作業に加え、自ら育てたイチゴを自分たちの言葉でお客様に伝えたいという要望を踏まえて、摘み取り体験では知的障害者が摘み取り方の説明や美味しいイチゴの見つけ方などを来園者に説明する新たな業務を担っており、栽培作業の経験を活かして業務の幅を拡大。
- 不登校の児童や生徒を招き、地域社会との繋がりを得る機会の場合として、定植体験や摘み取り体験を通じた当社の知的障害者との交流事業を実施。

## 取組

## 地域を耕す

- 廃棄されるイチゴを西陵高校の生徒が収穫し、高校生のアイデアによってイチゴの商品を開発するプロジェクトを実施することで、シーズン外のイチゴの実の廃棄問題解決に加え、商品廃棄問題の学びや障害者雇用、ものづくりと販売という生徒への学びの場を提供。
- 多様な人への理解と多様性を受け入れる社会を築くことができる人材育成を目指して、地域の小学校の児童を招きイチゴの摘み取り体験や定植体験を実施。

## 未来を耕す

- 配送手段を見直し、首都圏に向けては高速バスを活用した貨客混載バス輸送を行うことで、配送に伴う衝撃を回避し、長距離であってもいちごの品質維持と配送費削減を実現。
- 名古屋中心部へのスマート輸送のR8実用開始を目指し、自動配送ロボットによる配送を行う実証実験を3年間実施。

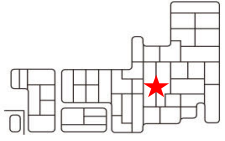
## 成果

平均賃金月額	障害者雇用数	売上高	交流人口
15万5,600円(R4) →16万3,125円(R6)	2人(R4) →4人(R6)	1,185万円(R4) →3,012万円(R6)	206人(R4) →235人(R6)

- 多様な人と関わり、新たな視点や考えをもたらし、将来、社会に踏み出す一つのきっかけの場になればとの思いで交流事業を実施。
- 廃棄ゼロファームを目指し、摘果した青い実をジャムとして商品化したり、葉かきや茎はモンキーセンターの飼料に提供したりすることで、産業廃棄量の低減に寄与。
- ココトモファームとのコラボ商品「イチゴのバウムクーヘン」に中電ウイングファームのイチゴを使用。農福連携事業者同士で連携。

大学農場において障害者を雇用し、様々な農作業に携わるほか、近隣の特別支援学校の就業体験実習の受け入れ等も実施。大学教育を通じた農福連携の取組を広く情報発信。

国立大学法人

岐阜県  
岐阜市

きっかけ

H20年

大学の技術職員の定数削減により、大学農場の人材確保が課題であった中で、障害者雇用を開始。

人を耕す

- 勤務する障害者は、基本的に大学非常勤職員として週30時間勤務の時給制で、勤続年数に応じた昇給を用意。
- 資格(振動工具取扱(チェーンソー以外)、小型車両系建機(整地用3t未満)、刈払機取扱作業者など)は積極的に取得してもらい、業務の幅を拡大。

地域を耕す

- ノウフクマルシェなどに出店し、岐阜大学で障害者雇用に取り組んでいることのPRを行い、農業分野での障害者雇用の実践と可能性をアピール。
- 学内保育園や、地域の幼稚園の農業体験(田植え、稲刈り、芋ほり)の受け入れを実施。
- 農業者や福祉関係者を対象に、大学農場での実践経験に基づいて農福連携の講義を実施。

未来を耕す

- 大学農場での障害者雇用は、平成20年から開始されており、各方面に対して実践経験に基づく情報発信。
- 特別支援学校の生徒約5~15名を年間20回程度受け入れ、大学農場で実習を行い、また就業体験としても各種作業に従事。
- ノウフクJASの消費者の認知度を調査し、効果的な普及と付加価値向上について研究を実施。

取組

成果

## 基本情報

設立:T12年 / 農福連携取組開始:H20年

取得認証等:ノウフクJAS(R7)

主な選定表彰:平成24年度 全国大学農場教育賞

概要

## 主力商品

(農作物)米・大豆、野菜、果樹、畜産物、林産物  
(加工品)ジャム、漬物、蜂蜜

## 特徴的な取組

スマート農業、林福連携、6次産業化

体制図

■岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センターは、農場部門と演習林部門で構成される。  
農場部門では、下記のような障害者との連携を行っている。

■岐阜大学・大学農場 — 障害者の直接雇用

■岐阜大学・大学農場 — 岐阜市立岐阜特別支援学校

(年間通じた就業体験実習【通称:デュアルシステム】の受け入れ)

■岐阜大学・大学農場 — 岐阜市立岐阜特別支援学校はじめ、近隣の特別支援学校

(インターンシップの受け入れ、及び卒業後の雇用)

## 受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所:岐阜県岐阜市柳戸1-1

TEL:058-293-2974

Mail:yano.michiko.b4@f.gifu-u.ac.jp

URL:https://www1.gifu-u.ac.jp/~gufarm/

## 売上高

2,088万円(R2)  
→3,200万円(R6)

## 障害者数

6人(R2)  
→9人(R6)

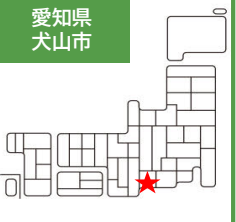
## 農地面積

18.66ha(R2)  
→18.66ha(R6)

- 先輩の障害者職員が仕事内容を直接、後輩の障害者職員に教えることで、先輩職員としてはやりがい、後輩職員としては、将来像のイメージにつながり、お互い生き生きと働ける職場環境を創出。
- 大学農場の学生実習において実習補助者として障害者職員が加わることで、大学生に対して障害者職員の作業の様子や雇用の意義を理解させ、大学教育を通じた学生への啓発を実施。
- 特別支援学校のデュアルシステム実習やインターンシップ実習を積極的に受け入れ、適性や能力を見極め、雇用に繋げている。

農福連携の取組により自社栽培したお米を活用し、バウムクーヘンなどの米粉スイーツを製造・販売。地域外企業との連携や、障害者が活躍する店舗の設置など、地域共生と多様性のある雇用創出を実現。

農林水産業経営体



きっかけ

R元年 「誰ひとり取り残さない居場所をつくりたい」という思いから始まり、農業と福祉を結び付け、地域の農地を活用しながら、障害者の働きがい創出と地域住民との共生ができる仕組みを模索。

基本情報

設立:R元年 / 農福連携取組開始:R元年  
 取得認証等:認定農業者(R元年)、GGAP(R6)、6次産業化認定事業者(R4)  
 主な選定表彰:ノウフク・アワード2022フレッシュ及び2024準グランプリ(地域)、ディスカバー農山漁村の宝(第9回/全国)

概要

主力商品  
 (農作物)水稲  
 (加工品)米粉バウムクーヘン

特徴的な取組  
 スマート農業、特別栽培農産物、6次産業化

人を耕す

- 複数業務(農業・加工・販売)を用意することで福祉事業者への請負報酬増を実現。また、複数業務の中から自身の特性に合った仕事を見つけられるため、一般就労への移行も実現。施設外就労からの正規社員登用も実施。
- 手話接客を行うサイニングストアでは、聴覚障害者が主体的に店舗運営を行い、責任者も輩出。

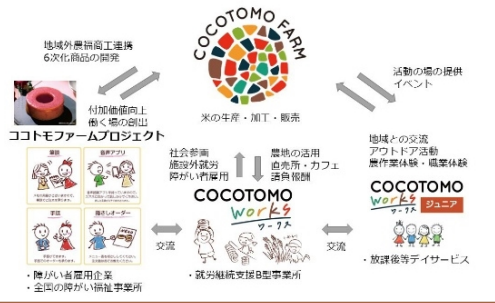
地域を耕す

- 農業・加工・販売の一貫体制により米の高付加価値化と安定収益を実現。
- れんげ農法による特別栽培米を生産。荒廃農地を活用し、稲作文化と地域景観を保全。
- カフェの経営、祭り(農業祭、ココトモフェスティバル)の開催・参加、見学会(ココトモファームツアー)や農業・収穫体験の開催、JA、行政、大学(日本福祉大学)、地元企業(中電ウイングファーム、名鉄グループなど)との異業種連携等で地域交流を拡大。

未来を耕す

- 農業・福祉・商業・工業を融合した「農福商工連携」を展開。
- 特例子会社中電ウイングと協働し、同社のいちごを使った「贅沢バウム ウイングいちご」を開発。農福連携を軸とした企業間連携という新しいモデルを展開。
- 聴覚障害者による「サイニングストア」など、多様性を体感できる革新的な店舗運営を実現。

体制図



受け入れている者

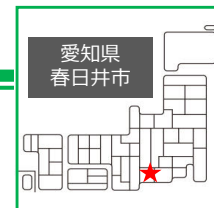
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

成果

請負報酬の支払額	農作業に関わる障害者等の数	売上高	農地面積
0円(R2) →782万円(R6)	4人(R2) →89人(R6)	3,280万円(R2) →56,106万円(R6)	8.2ha(R2) →11.8ha(R6)

- 米粉スイーツや地域コラボ商品の開発により、農産物のブランド価値と市場競争力を強化。
- 地元行政、大学、企業と連携し、多分野での協働を拡大。農業だけでなく観光・教育・福祉を巻き込む「地域共生型の農福モデル」を形成。
- 「ココトモフェスティバル2025」では約3,000人を集客し、地域全体を巻き込むイベントを実現。障害者と地域住民が共に楽しみ、交流できる場を提供。

住所:愛知県犬山市大字犬山字上り屋6番地11  
 TEL:0568-54-4717  
 Mail:shop@cocotomo-farm.jp  
 URL:https://www.cocotomo-farm.jp/



農業法人として花き鉢物の生産を通年で実施しており、精神障害者1名をパート社員として雇用するほか、近隣の障害福祉サービス事業所から、知的・精神障害者、生活保護受給者など数名の受入を実施。

### 基本情報

- 所在地：愛知県春日井市
- 団体名：(有)H & Lプランテーション
- 選定表彰：中日農業賞 中日賞
- 主力商品：植物苗  
(ハーブ・花・野菜・多肉植物など)
- 取得認証等：－



### 取組の概要

- 農地1haで、ハーブ、花、多肉食物、野菜等の苗を生産し、自ら販売も実施。
- 障害者を農場の貴重な人材として直接雇用。
- 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」(愛知県認定)がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。
- 法人の代表取締役は、日本園芸福祉普及協会の認定資格である園芸福祉士を取得するなど、障害者の受け入れに熱心に取り組む。

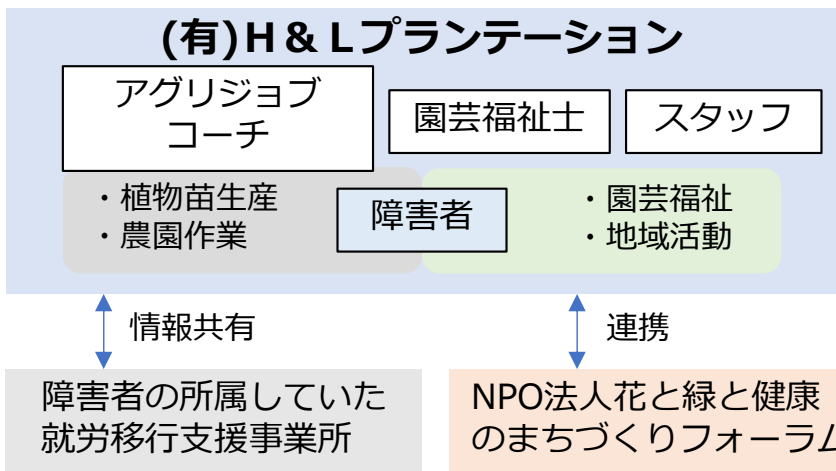


花苗の移動作業



花苗の施肥作業

### 体制図



### 取組の成果

- 花き鉢物の生産に携わる作業を委託することで、年間を通した受け入れを体制を実現するとともに、精神障害者1名をパート社員として雇用。
- 障害者の所属していた就労移行支援事業所と連絡を密にし、障害者への接し方の留意点を把握することで、ケガや病気の防止につながり、良い労働環境を実現。
- 地域のNPO法人と連携し、動物園や植物園の花壇の植栽作業や花材提供等を年3回行い、障害者の作業による成果を地域に発信している。

所在地 ▶ 愛知県春日井市明知町794番地  
 連絡先 ▶ TEL:0568-88-0858 E-mail:kasugai@h-and-l.co.jp  
 ウェブサイト ▶ <http://www.h-and-l.co.jp/index.html>

# 【取組のプロセス】

平成12年から、障害者の受入れを開始

平成12年

## きっかけ

植物や園芸・農芸作業を活かした健康・福祉・環境・まちづくりを行う「NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラム」を通じて、農福連携、園芸福祉活動を開始

NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラムと連携し、障害者の自立支援に取り組む

平成19年

## 園芸福祉士を中心に障害者の自立支援に取り組む

- 代表者が日本園芸福祉普及協会の認定資格である園芸福祉士を取得し、園芸福祉活動の地域への普及や啓発、障害者の受入れに熱心に取り組む。
- NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラムと連携し、障害者の自立支援に取り組む。



野菜の苗の生産（ナス）

平成24年から、農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」を導入

平成26年

## アグリジョブコーチがほ場で指導

- 近隣の福祉事業所から、知的・精神障害者、生活保護受給者など数名を受け入れ。
- 花き鉢物の生産に携わる作業を福祉事業所に委託することで、年間を通じた受け入れを体制を実現。
- 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ（愛知県認定）」がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。
- 障害者のケガや病気の防止につながり、良い労働環境を実現。



アロエ各種

青パイヤに関する専門サイトをオープンするなど、関連企業との連携による横展開を図る

令和2年

## 障害者の受入れを拡大

- 精神障害者1名をパート社員として雇用。
- 令和3年、愛知県が実施する「愛知県版農業ジョブコーチ養成研修」の講師を担当。

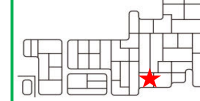


花の生産（ペチュニア）

今後の展望

## 営利活動と社会貢献活動の両立

- 社会貢献活動と営利活動の両立により、農場スタッフの“やりがい”と“達成感”を得ることに繋がっている。
- 今後も営利活動と社会貢献活動の両立を進める。



福祉事業者として、自然栽培で水稲や野菜の生産を行うほか、出荷調製、加工、販売まで全てを実施。手間のかかる自然栽培を行うことによって、障害者就労意欲の向上に繋がり、耕作面積が増加。

## 基本情報

- 所在地：愛知県豊田市
- 団体名：社会福祉法人 無門福祉会
- 選定表彰：第4回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」優良事例選定(東海農政局)
- 主力商品：自然栽培による農産物(米、たまねぎ、きゅうり等)の他、菌床椎茸
- 取得認証等：－



## 取組の概要

- 現在7.7haの農地において、米、オクラ、にんじん、はくさい等約30品目の作物を無農薬・無肥料で自然栽培。また、養鶏農家で約300羽の飼育作業、菌床椎茸を年間15,000菌床栽培。障害者は、農作業全般のほか、出荷調製、加工、販売まで実施。
- 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低かったが、平成26年に自然栽培に切り替えたことで就労意欲が向上。
- 開所当初は、障害者には石拾いなどの単純作業を割り当てたが、飽きてしまうなどの様子が見られたため、その後、比較的難度の高い収穫や選別作業などにも従事。



いちごの虫取り作業



さつまいもの収穫作業

## 体制図

就労/毎日

- ・農業生産法人 みどりの里 (果樹、野菜)
- ・高木養鶏 (飼育作業)

### 無門福祉会

自ら7.7haの農地で  
自然栽培/菌床椎茸栽培

ライフサポートむもん  
(施設入所支援・生活介護)

むもんカンパニー  
(就労継続支援B型)

むもんカンパニー青い空  
(就労継続支援B型・生活介護)

⇒参加

農福連携自然栽培  
パーティ全国協議会

・トヨタ自動車社員  
ボランティア

・近隣の小学生

⇐支援/体験

自然農福の力  
(ばれいしょ)

就労/随時

## 取組の成果

- 農業技術の高さが評価され、平成26年からは、市内の農業法人から農作業の請負を開始。
- 障害者が作業に習熟することにより、いちごポットの土詰めは、1日あたり100ポットから1,000ポットへと10倍の処理が可能になった。
- 自然栽培への切り替えにより、農業に手間をかけることで就労意欲の向上につながり、自然栽培開始直前は0.1haほどだった耕作面積が、現在では7.7haまで増加。また、令和4年度の売上高は、3事業所合計で約6,600万円。

所在地 ▶ 愛知県豊田市高町東山7-43

連絡先 ▶ TEL:0565-45-7883 E-mail:info@mumon-fukushi.net

ウェブサイト ▶ <https://www.mumon-fukushi.net/>

# 【取組のプロセス】

農福連携により農業に取り組むがうまくいかない

自然栽培に切り替える

・休耕地を借り受け本格的に自然栽培を開始

・自然栽培農家との連携を開始

自然栽培による農福連携を通じて荒廃農地の解消を目指す団体「農福連携自然栽培パーティ全国協議会」を設立

・農業ボランティアを企業に呼び掛け、トヨタ自動車社員ボランティアによる農作業がはじまる

・地元小学校と一緒にお米作りを始める

昭和63年

平成26年

平成28年

平成29年

令和6年

今後の展望

## きっかけ

昭和63年の開所以来、農業に取り組んでいたものの、売上が伸び悩み、農業部門の廃止を検討する中で、自然栽培に取組はじめる

### 開所以来、農作業に取り組む

- 昭和63年の開所以来、農作業に取り組む。
- 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低下。

### 自然栽培に切り替え、魅力ある農業に変わりモチベーションアップ

- 平成26年から、無肥料・無農薬の自然栽培に切り替え、おいしく安心な野菜栽培、環境に配慮した魅力ある農業となり、就労意欲が向上。耕作面積と売上高の増加に繋がり、経営にも効果を上げる。
- 農業は作物によって様々な作業があり、共同作業を通じ、利用者と職員との関係性もよりフラットとなるなど、他の施設内作業にはない効果があると確信。

### 福祉事業者自らが休耕地7.7haを耕作

- 平成26年から、農作業の場として、市内の荒廃農地の再生を開始し、7.7haを福祉事業者自らが耕作。障害者が、農地を維持する役割を担う。
- 令和6年1月現在は、知的障害者を中心とした施設利用者95名が、米と野菜の生産、加工を通年で実施。

### 障害者が「地域につながる」ことが「地域をつなげる」ことになる

- 地元の子どもたちに向けて、自然に触れながら食を楽しく学ぶ「こども体験農場」を毎月1回実施。
- 自然栽培による農福連携を通じて荒廃農地の解消を目指す団体「農福連携自然栽培パーティ全国協議会」を通じて、障害者による自然栽培の農業を全国に広げていく。



無肥料・無農薬で約30品目の野菜を栽培



いちごも無農薬で栽培



ボランティアの皆さんと田植え作業



「こども体験農場」パネルを用い作業説明

障害者、生活困窮者、ひきこもり、刑務所出所者等の多様な者で、農福連携×都市農業による米の付加価値向上を行う。また、ユニバーサル農園の開設により、多様な人材が参加・交流できる場を創出。



きっかけ

H28年 内職や施設外就労メインの事業所から、県の農福連携セミナー参加をきっかけに農業に参入。循環型農業と農福連携に取り組むほか、子ども参加型体験などを展開。

基本情報

設立:H24年 / 農福連携取組開始:H28年  
 取得認証等:認定農業者(R7)、農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R4)  
 主な選定表彰:R4年度名古屋市食育イノベーション大賞優秀賞

**概要**  
**主力商品**  
 (農作物)米、白菜、サツマイモ  
 (加工品)一味唐辛子  
**特徴的な取組**  
 環境保全型農業、自然栽培、特別栽培農産物、スマート農業、ユニバーサル農園

人を耕す

- 障害者だけでなく、生活困窮者やひきこもり20名で取り組む。刑務所出所者も5名受け入れ。
- 農作業マニュアルや工賃規定等を整備することで作業効率を高め、工賃とモチベーションが向上する仕組みを構築。また、スパイダーモアや刈払い機などの作業を障害者が行える環境を整備し、作業効率をさらに向上させた。
- 農作業を通じて、地元の信頼を獲得し、農業土木委員等で水回りを担う者を輩出。

取組

- 生産が減少している愛知県の伝統野菜「野崎白菜」の生産・販売を行い、普及に寄与。
- 認定農業者、JAの正組合員、地域計画の担い手として、荒廃農地14,588㎡を開墾・再生し、農地面積を9haまで拡大。
- 地域のお祭りや防災訓練イベントへの参加、自然栽培の農業体験イベントの実施などを通じ、地域住民や学生ボランティア、行政、企業・団体など地域の交流・連携の場を創出。

未来を耕す

- 都市部での循環型農業の拡大を目指し、アイガモロボを活用した米作りを実施。子どもがスマート農業技術に触れることで、農業の価値観の変革も目論む。
- JAなごや、中川区社会福祉協議会、地元企業・飲食店等と連携し、稲作の農業体験「みんなで未来をつくろ米！プロジェクト」を実施し、都市農業の保全、地域活性化に寄与。

**体制図**

株式会社ウィンパートナーズ

- ぽかぽかケアサポート (訪問・居宅)
- ぽかぽかワークス (就労B)
  - ・ぽかぽかファーム
  - ・ぽかぽか自然農園元中野町 (市民農園)
  - ・子ども未来基地 (ユニバーサル農園)

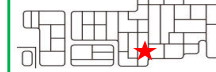
住所:愛知県名古屋市中川区荒子5-165  
 TEL:052-398-6320  
 Mail:kudo@win-p.com  
 URL:https://www.win-p.com/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

成果

平均工賃月額	交流人口	売上高	農地面積
11,837円(R2) → 21,367円(R6)	165人(R3) → 3,513人(R6)	190万円(R2) → 1,625万円(R6)	2ha(R2) → 9ha(R6)

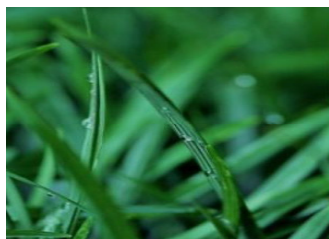
- 1名が一般就労し、生活困窮者2名が事業所の職員として活躍。その姿を見て、他の障害者も一般就労を目指して訓練するなどの好循環を生む。
- ユニバーサル農園を開設し、従来の農業にとらわれず、間引き菜をその場で食べる、除草しながらおいしい雑草を探すなど自由に遊び心のある農体験を提供。多世代かつ障害者、ひきこもり状態の者、生活困窮者など多様な人が参加し、交流できる場を創出。
- 農福連携×都市農業というブランディングで成功し、米の付加価値向上を果たす。現在は、結婚式の両親贈呈品(体重米)としても全国で販売。



障害者の継続雇用と植木産地における就労拡大を目的として、造園や緑化工事に欠かせない植物「タマリユウ」の定植、除草作業などを就労継続支援A型事業所に年間を通じて委託。

## 基本情報

- 所在地：三重県鈴鹿市
- 団体名：株式会社 イシイナーセリー
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021 優秀賞
- 主力商品：タマリユウ（玉竜）  
ユリ科（キジカクシ科）
- 取得認証等：－



タマリユウ  
ひとすじ



## 取組の概要

- 地域の社会福祉法人から草取りなどの軽作業で障害者を受け入れたことがきっかけで障害者を直接雇用。障害者の継続雇用と就労拡大を目的にNPO法人を設立し、就労継続支援A型事業所きららの運営を開始。
- 造園や緑化工事に欠かせないタマリユウの出荷量日本一の生産者として、農作業をきららに委託し、知的、精神、身体障害者の計11名がタマリユウの定植、除草作業などに従事。年間でマット約9万枚、約90万ポットを生産。
- 大量生産には就労継続支援A型事業所との連携が不可欠であり、色や葉丈など均一かつ顧客ニーズに細かく対応。



広々とした農場で、丁寧に除草



サービスエリアに設置した花壇



作業ごとに札を立てて、作業を見える化

## 体制図

農業経営体

株式会社 イシイナーセリー

● 意見交換

● 農作業委託

福祉部門

特定非営利活動法人ヘルプランツ

- 品質向上に向けて定期的な意見交換

就労継続支援A型事業所

きらら

## 取組の成果



### 取組実績

項目	単位	取組当初	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和5年度
利用者賃金	月額 円		83,269	92,634	96,600	98,895	12万円弱

- 賃金は、他の利用者へのフォローや出勤率など、単なる枚数だけの評価にならない仕組みを取り入れており、自己肯定感を下げない工夫を行っている。
- 作業の効率化と改善の取組を続けることで、生産性、品質が向上し、造園のプロから選ばれ続けている。

所在地 ▶ 三重県鈴鹿市住吉

ウェブサイト ▶ <https://www.best-tamaryu.com/>

# 【取組のプロセス】

昭和46年

新規就農し、個人事業としてサツキなどの生産を開始

平成12年

**きっかけ**

平成12年頃に近隣の社会福祉法人から農作業を希望する障害者を紹介され、働く姿に可能性を感じたことがきっかけで取組を開始

## 障害のある人とともに地域と農業の明るい未来を創る

- 平成23年に障害者の継続雇用と植木産地における就労拡大を目的とした特定非営利活動法人ベルプラントを設立し、同年に就労継続支援A型事業所きららを開所。
- 造園や緑化工事に欠かせない植物であるタマリユウの定植、除草作業などの農作業をA型事業所きららに委託。

平成23年

知的、精神、身体障害者、ひきこもりの状態にある者と農作業に取り組む

平成27年

労働環境、働きやすさの改善を進めるため、作業器具などにも工夫した。

## 特性、得意分野を活かした仕事の配置

- 平成27年、個人事業から株式会社イシイナーセリーへ法人化。経営方針は「最高品質のタマリユウ生産を通して、お客様に感動と笑顔を提供し、障害のある人とともに地域と農業の明るい未来を創る」。
- 能力や性格を把握して、チーム編成や能力に合わせた作業の割り当てを行い、特性や日々の状態にあった作業を探ることで適材適所の配置を実施。

平成30年

伊勢志摩サミット開催記念事業受託

駒沢オリンピック公園 球技場屋根緑化への納品

## 高付加価値と働きがい

- 作業の効率化・改善を重ね、造園のプロから選ばれる高品質な商品づくりにより平成30年には県内平均賃金月額より約32%高い賃金を実現。
- 駒沢オリンピック公園 総合運動場 新屋内球技場の屋根緑化への納品の他、サービスエリアでは、花壇デザインから設置・管理・撤去に至るまでを職員と利用者が共に行ない、通常の農作業では味わえない目に見える仕事ならではの面白さを感じられたことで、出勤率が向上。

今後の展望

県内外へ、障害者も価値の高い造園施工を担えると、広く示すことができた

## 障害の有無に関係なく 新たな担い手とともに活躍できる産業

- 植木農家と福祉事業者のマッチングで農福連携の輪を広げた施設外就労の取組を継続して実施。
- 農業大学校の実習受け入れやひきこもりの状態にある者や生活困窮者へも門戸を広げ就労拡大を図り、農福連携の推進、地場産業の発展を目指していく。



聖火リレー出発点の駒沢オリンピック公園の緑化



日本パラ水泳選手権大会にて市松模様を表現



マットタイプを利用した造園施工の様子

トレーから外すだけで「緑のじゅうたん」が完成する。造園工費コスト削減だけでなく、障害の有無に関係なく作業ができるメリットもある。



福祉施設と連携し、ウェルビーイング（肉体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態）な「生き直し」を支援する農業カリキュラムの場として確立させるとともに、著名ブランドなどで採用されるいちごの生産を実施。

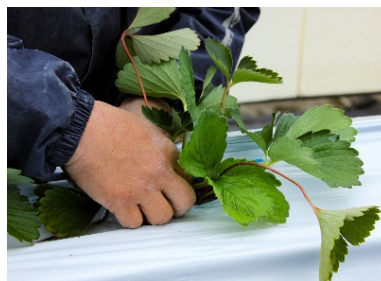
## 基本情報

- 所在地：三重県伊賀市（伊賀農園）
- 団体名：遊士屋株式会社
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021  
フレッシュ賞
- 主力商品：いちご  
完熟クラフト莓BERRY  
（自社ブランド）
- 取得認証等：－



## 取組の概要

- 連携する（一社）ワンネス財団が運営する施設を卒業した者（知的障害、発達障害、各種依存症、ひきこもりの状態にあった者などの生きづらさから回復した者）を一般就労の形で雇用。
- ワンネス財団は福祉カリキュラムとして農園での作業を採用しており、週平均20名ほどが農園での作業を通し、他者と関わり合いながら、自身の抱える障害に向き合い、生き直しに向けて取り組んでいる。
- 直販と輸出に注力した品質特化の栽培戦略を採用。自社ブランドとして「完熟クラフト莓BERRY」を立ち上げる。農園から個人宅への直送を行う他、著名ブランド・国内外のトップシェフらから採用。



いちごの栽培



ハケを使用して丁寧に選果



多様な年齢・背景を持つメンバーが働く

## 体制図



## 取組の成果

- 消費者の声が直接届くことや、有名な店舗などで採用されることで、障害者の生き甲斐に繋がっている。
- 地域のお祭りなどのイベントに出店し、冷凍いちごスモージーや、ホットワインなどの提供を実施することで地域の活性化に貢献。
- 地域の荒廃農地、遊休農地を活用し、令和2年～3年は、自社サイト経由だけで1,800件を超える消費者へいちごを届け、デジタル販売の活用が注目されGoogle社のテレビ広告に採用。

所在地 ▶ 三重県伊賀市法花3605

連絡先 ▶ TEL：080-1618-5059 E-Mail：info@berryjapan.com

ウェブサイト ▶ <https://berryjapan.com>

# 【取組のプロセス】

平成29年

## きっかけ

様々な生きづらさによって、一度は人生やキャリアに立ち止まってしまった方が、再び生きがいを持って「生き直すことのできる場」を作りたいという思いから、肉体的、精神的、そして社会的にも、すべてが満たされた状態を目指す農園として設立

### 再び生きがいを持って「生き直すことのできる場を作りたい」

- 平成29年10月、農福連携の実現を目指し三重県伊賀市の荒廃農地を賃借し、いちごのテスト栽培を開始。
- 農業と福祉を掛け合わせるだけでなく、「世界一だと誇れる仕事をする事」を掲げ、世界中に自分たちの作ったいちごを届けることを事業の根幹に据えて環境整備、仕組みづくりを行う。



BERRYの莓が  
人気パティスリーに採用

令和元年

### 自社ブランド「完熟クラフト莓BERRY」を発表

- 令和元年12月、高級高品質の自社ブランドとして、「BERRY」を立ち上げ、個人向けのデジタル販売を開始。
- 国内直接販売とタイ・バンコク・シンガポール・台湾・香港などへ贈答品として輸出を開始。
- 英国王室御用達の陶磁器ブランド創設記念キャンペーンやミシュラン掲載レストランで採用となる。



BERRY使用のケーキ

令和2年

### 地域とともにある農園

- 地元在住のスタッフを雇用することで障害者等への理解を広げ、高齢化集落で土地を借り、若い人材を増やしている。
- 地域と障害者のコミュニケーションを増やすため、令和2年後半から地域イベントへ積極的に出店。
- 地域住民との対話など様々なゲストを招き、交流することで社会性や自己肯定感が育まれている。
- 育苗施設、作付け等を行う農地は地域の荒廃農地や遊休農地を活用。



強みを活かせるよう作業分野を分担し、それぞれに責任範囲を持つような作業設計を行う

福利厚生として、スタッフの心身の健康のため手作りの食事を振る舞い、チームの結束が高まる

個人向け直販、プロ向け直販、輸出等、売上を分散したことで、コロナ禍でも経営資源を最適に分配する体制が構築できた

家族を畑に招いたり、母の日に会社経費で各自の母親へいちごを贈るなど家族とのコミュニケーションを重視

作付け面積55a、育苗施設などの150aは全て地域の荒廃農地、遊休農地を有効利用

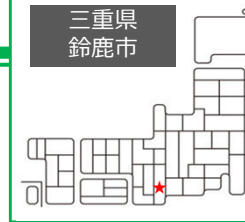
今後の展望

### 地球の未来に繋がる技術革新に取り組む

- 農福連携の枠組みにとらわれず、気候変動後の時代を見据え、環境負荷を限りなく減らした持続可能な栽培方法の確立という目標を定めて、当社農園敷地内に研究所を建設し、CULTIVERA社と共同で実証研究を開始。
- より大きなビジョンと課せられた使命が、障害者等のモチベーションアップへ繋がる。



一人一人が主役として働く



平成22年に就労継続支援事業所を開設し農業に参入するとともに、平成25年にはステップアップカフェ開設により飲食事業に取り組む。障害者が好きな作業、得意な作業を選択することで作業の能率を上げ、高収入が得られる組織作りに取り組む。

## 基本情報

- 所在地：三重県鈴鹿市
- 団体名：社会福祉法人朋友
- 選定表彰：
  - ・ ノウフク・アワード2022準グランプリ「人を耕す」
  - ・ 第10回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」東海農政局選定
- 主力商品：水耕栽培（リーフレタス、水菜、小松菜等）、露地野菜（大根、里芋等）、弁当、パン、総菜
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS



「ひびこれ弁当」  
自社農場の農産物を使った農福弁当

## 取組の概要

- 農業部門は、ハウスの水耕栽培を中心に露地栽培でも野菜を生産。露地栽培の農地は97a（平成30年）から153a（令和3年）に増加。
- 飲食部門は、平成25年にステップアップカフェを開設、平成27年にはCotti菜Deliを開設し弁当作りで障害者雇用を開始。
- 令和4年に弁当・パン・総菜の製造販売とイートインコーナーを併設した新店舗を開設。売上は2,149万円（平成30年）から3,486万円（令和4年）に増加。



わか菜の杜での  
水耕栽培

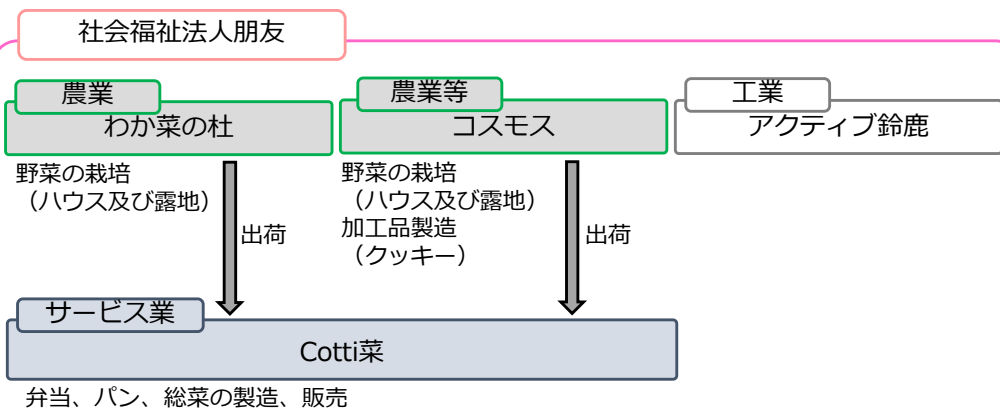


令和4年4月開店の新店舗  
「Cotti菜」



「Cotti菜」で作った  
パンの販売

## 体制図



## 取組の成果

- 就労継続支援B型事業所「わか菜の杜」及び「Cotti菜」を合わせた令和4年度の平均工賃は42,685円を達成（令和4年全国平均は17,031円）
- 利用者数は10名（令和4年3月）から17名（令和5年3月）に増加。
- 令和4年には、就労継続支援B型事業所「コスモス」の経営も担い、障害者雇用及び農業生産拡大に取り組んでいる。

所在地 ▶ 三重県鈴鹿市三日市南三丁目18-23

連絡先 ▶ TEL: 059-389-7789

E-mail: cottina@active-suzuka.com

ウェブサイト ▶ <https://www.active-suzuka.com>

# 【取組のプロセス】

知的障害・精神障害者を中心に加工作業に取り組む

平成12年

## きっかけ

製造業で障害者を雇用する中で、障害者もそれぞれ就きたい仕事があることを知り、勉強会を踏まえ、農業分野での障害者の活躍の場を作り出せる確信を得たことから農福連携の取組を開始

平成22年

2つ目の柱となる農業分野「わか菜の杜」を立ち上げる

## 障害のある方の社会参画を推進

- 平成18年に自動車部品製造の事業所を設立。障害者を雇用する中で、障害者もそれぞれ就きたい仕事があることを知る。
- 農業とレストランの分野で障害者が活躍できる場所を作れないか、勉強会を実施。

平成26年

3つ目の柱となる飲食分野Cotti菜Deliを立ち上げる。

## 新たな事業の展開

- 平成22年のリーマンショックで製造業が停滞したため、障害者が働く場の創出に向け、勉強会で障害者の活躍に確信を得ていた農業分野に進出。
- 平成25年に三重県の公募に申請し、障害者が働くステップアップカフェCotti菜を開業。平成27年に鈴鹿市でCotti菜Deliを開業し、弁当作りで障害者を雇用。
- 令和2年12月にノウフクJASを取得。

令和2年12月ノウフクJAS取得

新店舗設立に向けた経営支援

令和4年

新店舗Cotti菜を設立

## 新店舗「Cotti菜」を設立

- 令和4年にCotti菜Deliを移設する形で新店舗を開業。
- 新店舗では、障害者の就労を増やすとともに従来から働く障害者から希望があったパンや総菜を調理・販売するスペース及びイートインスペースを設け、店舗内で弁当やパン等を食べられるようにした。
- 店舗内の販売スペースには、わか菜の杜の野菜や三重県内の農福連携商品販売コーナーを設け、農福連携事業の情報発信基地にもなっている。

今後の展望

## 障害を持つ子供たちの働く将来を考える場の提供

- 隣接する放課後等デイサービスに通う障害を持った子供たちに、障害者が働く職場の見学及び就労体験の受入れを行い、早くから働くことを知り将来を考える機会を提供。
- 障害に対する悩みや不安を話し合ったり、福祉制度の勉強会等の活動を行う。



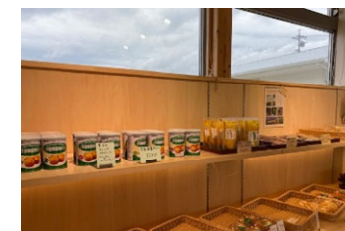
ノウフクJAS認定野菜



Cotti菜での弁当作り



Cotti菜での弁当及び野菜の販売コーナー



Cotti菜の三重県内農福連携商品販売コーナー（上段）



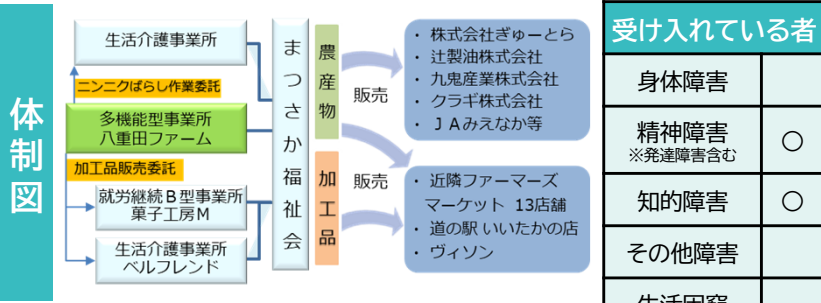
ハウスでのいちご栽培を中心とした農作業を通年で実施。県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIAGAP認証を取得。高品質ないちごを生産することで、県農業の担い手として期待。



基本情報

設立:H30年 / 農福連携取組開始:H30年
取得認証等:ASIAGAP認証(H31)JGAP移行(R8)

主力商品 (農作物)いちご、ナバナ、金ゴマ、ニンニク、カボチャ等 (加工品)ジャム、漬物、ドライフルーツ、焼き菓子等
特徴的な取組 高設栽培システムの導入



住所:三重県松阪市八重田町31-6
TEL:0598-63-1551
Mail:mu-yaeda@mctv.ne.jp
URL:https://mukaiyaebell.or.jp/office/yaeda.html

きっかけ

H30年
利用者と屋外での作業がしたいという思いから、法人理事の農地等を借り、25aの農地からスタート。

人を耕す

- 利用者の方には色々な作業に挑戦してもらい、適性に合った作業を探し、得意な作業を通じて作業への自信を持てるように支援。苦手な作業はしないのではなく、できることを取り組んでもらい、小さなことでも「できた」という達成感を感じられるように支援。
● 猛暑対策に空調服、寒さ対策にヒートベストを導入し、身体的配慮を行っている。また、休憩の時刻は定めず、その日の作業内容や気候等によって、臨機応変に休憩を取るよう工夫。

地域を耕す

- 地域の高齢農家の農地を管理することで、耕作放棄地を減らしている。また、地域の草刈りや砂利敷き、水路の土あげ等にも取り組んでいる。
● 農産加工品の製造・販売において、地域内の業者を積極的に利用。
● 子供会の芋ほり用のさつまいも苗を無償で提供。

未来を耕す

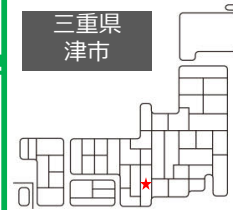
- 工賃向上第一ではなく、利用者支援を一番に考えている。色々な経験を積んで成長し、さらに新しいことにチャレンジしていくことで、生活面も充実していく。
● 成長を促す支援の結果、1人1人のできることが増えて行き、作業もたくさんできるようになり、比例して収益が増えてきた。
● 令和4年度から少年院の在院生の実習を受け入れ、令和7年度から刑務所の受刑者の職場体験を受け入れ、農福連携の強化に取り組んでいる。

Table with 2 columns: 受け入れている者 (Body, Mental, Intellectual, Other disabilities, Life difficulties, Homelessness, Elderly, etc.) and checkboxes for each category.

成果

Table with 4 columns: 平均工賃月額 (31,650円(R2) → 45,000円(R6)), 障害者数 (17人(R2) → 17人(R6)), 売上高 (2,550万円(R2) → 2,900万円(R6)), 農地面積 (2.5ha(R2) → 3.0ha(R6))

- 平成31年には、三重県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIAGAP認証を取得。(ASIAGAPが令和10年に終了し、JGAPと一本化するため、令和8年2月JGAPに移行)
● いちごの品質が認められ、平成30年には国際線機内食にも採用。
● いちご導入当時より利用者ができる作業が増え、収穫作業にも従事。
● 県内大手スーパーと直接取引を開始。
● 生活介護利用者に対しても15,000円から20,000円を支給。(令和6年度)



平成27年から農業ジョブトレーナーの養成を中心に活動すると共に、障害者による農業体験の実施、特別支援学校との連携、障害者が生産した農産物を用いた商品開発など、幅広い取組を展開し、福祉事業所や農業経営体をサポートを実施。

## 基本情報

- 所在地：三重県津市
- 団体名：一般社団法人  
三重県障がい者就農促進協議会
- 選定表彰：
  - ・第8回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」  
農林水産省 グランプリ
- イベント
  - ・農業ジョブトレーナー養成講座、スキルアップ研修等の開催
  - ・ノウフクマルシェの定期開催
  - ・県内大学のインターンシップ受け入れ（随時）

## 取組の概要

- 三重県独自の「農業ジョブトレーナー」の養成講座を開催しており、平成27年度から令和5年度で547名を養成。農福連携の理解者を増やし、福祉事業所や農業経営体及び関係機関等の担当者を育成を図る。
- 特別支援学校との連携では、農業ジョブトレーナーを作業学習(農業)やインターンシップの支援に派遣するなどして、農業経営体を進路先として選択する生徒もいる。
- JA三重中央会と連携し、施設外就労のマッチングに取組、新たに農福連携に取り組む農業経営体や福祉事業所を支援している。
- 「ノウフクサポートセンターみえ」を開設し、農福、林福、水福連携のワンストップ窓口として相談や情報提供が的確に行えるよう体制を整備。



農業ジョブトレーナー養成講座



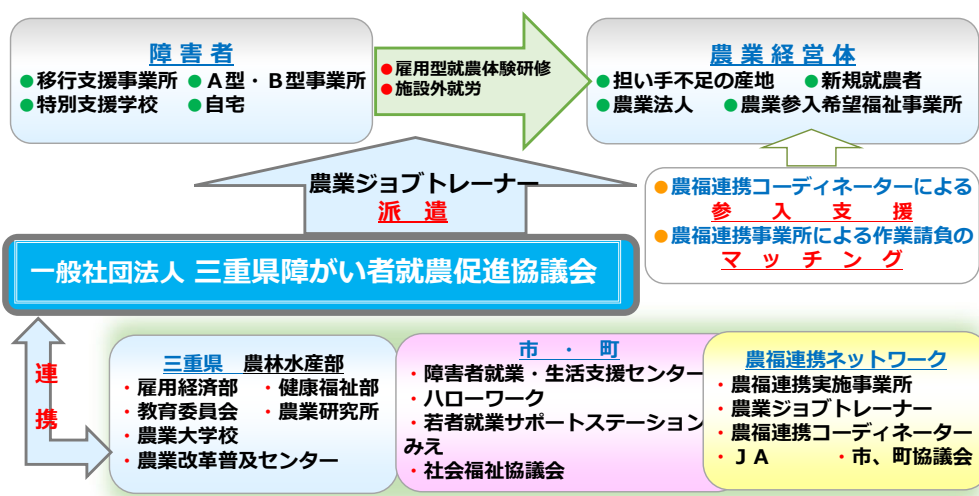
JA津安芸のキャベツの収穫（施設外就労）



特別支援学校くろしお学園

地域伝統野菜高菜の収穫

## 体制図

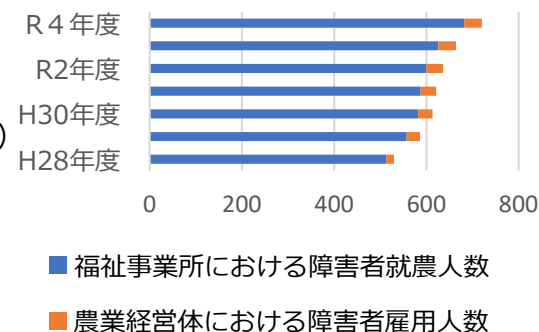


## 取組の成果

- ノウフクマルシェの定期開催19回（令和5年度）
- ノウフクJAS認定を取得した県内の4福祉事業所を中心に、ノウフクJASフェアを開催
- 新商品開発支援（18件）新作付技術支援（15件）を実施。



### 農業分野で活躍する障害者数



所在地 ▶ 三重県津市桜橋2丁目142 三重県教育会館 1F

連絡先 ▶ TEL:059-253-4187 E-mail: mieshuno@dune.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <https://mieshuno.net>

# 【取組のプロセス】

平成27年

- ・平成27年10月1日設立
- ・雇用型就労体験研修実施
- ・キックオフイベント開催
- ・障害者就農支援
- ・スキルアップ研修開催

平成28年

- ・農業ジョブトレーナー養成講座開催
- ・農福連携マルシェの開催
- ・農福連携全国サミットinみえ開催

平成29年

- ・特別支援学校との連携開始
- ・施設外就労への支援

- ・新商品開発の支援
- ・新作物の作付指導支援
- ・ノウフクマルシェの開催

令和2年

- ・農福連携ワンストップ窓口設置
- ・JA三重中央会との連携

令和4年

- ・ノウフクサポートセンターみえの開設
- ・林福連携、水福連携の取組を開始

- ・ノウフクJASフェアの開催、インターンシップの受け入れ

今後の展望

## きっかけ

農福連携を推進する中で、農業経営体からは「どう接していいかわからない」、障害者からは「農業の経験がないから不安」などの声があり、双方がなかなか踏み出せないでいる現状を痛感し、双方の不安を払拭するには、両者をマッチングし、就農に向けサポートする人材が必要と考え、農業ジョブトレーナー養成講座をスタート

### 農業ジョブトレーナーの養成と障害者の就農支援

- 農業経営者と就農を希望する障害者（家族も含む）の双方に関わり、障害者がより働きやすくなるよう支援・指導する「農業ジョブトレーナー」の養成講座を開催。
- 平成27年度から令和4年度末で547名を養成。農業ジョブトレーナーは、初めて農業に携わる障害者や、施設外就労に初めて取り組む福祉事業所及び農業経営体のサポーターとして、また、農福連携に取り組む福祉事業所や農業経営体及び関係機関等の担当者として活躍。



多様な就労作業支援

### 特別支援学校との連携 ～農業が進路選択の一つに～

- 特別支援学校の職場体験実習に農業ジョブトレーナーを派遣し、生徒と農業経営者の双方をサポート就職後も定着に向け、定期的に支援を実施。
- 県教育委員会及び特別支援学校の協力のもと農業教育プログラムを作成（令和2年度）。作業学習等に取り組む特別支援学校では、農業経営体を進路先として選択する生徒もいる。



石ころやコンクリートの破片を取り除き実習園として整備

### ノウフクマルシェの開催・商品開発・販路拡大の取組

- 百貨店・駅ビル・ファーマーズマーケットで定期的にノウフクマルシェを開催。ファンが定着してきており、販路拡大につながっている。
- 生産物の加工品の開発や新たな作物の栽培支援を行いノウフク・ブランドの確立を目指している。



生産物の加工品開発支援

### 施設外就労の拡大とワンストップ窓口の充実

- JA三重中央会と連携し、施設外就労のマッチングに取り組み、農業に参入する福祉事業所を支援。
- 農福連携に関する相談窓口を東紀州地域にも設定し、いつでもどこでも相談できる体制を整備。
- 農業ジョブトレーナー養成講座やスキルアップ研修などにおいて、オンライン参加の環境を整備。

### 「ノウフクサポートセンターみえ」開設 令和4年8月

- 農業に加え林業、水産業との連携も視野に農・林・水福連携に関する相談や情報提供が的確にできるよう「ノウフクサポートセンターみえ」を開設し関係機関との連携を進めている。



農業ジョブトレーナーの派遣

### 県内大学のインターンシップの受け入れ開始

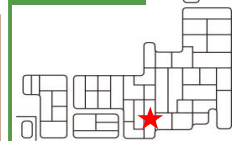
- 福祉事業所におけるインターンシップ実施のサポートおよび学生ボランティアの受け入れ。

### 企業・関係機関との連携の推進 ～ノウフクパートナー～の募集

- 農福連携の取組の趣旨に賛同し、作業委託、栽培委託、資材の提供、活動場所の提供、技術指導などともに活動していただく企業、関係機関との連携を進めていく。

放課後等デイサービスを運営する中で、障害者が社会参画できる場として農業参入。ワイン専用欧州ぶどうの栽培からワイン製造まで全て自社で実施し、国際交流にも発展。

## 福祉事業所

三重県  
伊勢市

## きっかけ

H29年

「人よりも遅くてもいい、少しずつできる事が増え、達成感や生きがいを感じられる働き場が障害者に必要」と考え、農福連携によるワイン作りを開始。

## 人を耕す

- 製造するワインやジャム等はすべて自社開発製品であり、原材料もすべて自社栽培しているため、中間マージンを削減でき、高い利益率は工賃向上に寄与。
- 一般就労の準備としてビジネス研修やソーシャルスキルトレーニング(SST)を実施し、障害者の積極的な学びの機会を創出。

## 地域を耕す

- ワインぶどう栽培はマニュアル化・ルーティーン化しやすく、健常者と障害者の受け持つ仕事の役割分担がしやすいため、生産性の向上を実現。
- 1haの荒廃農地を有効活用し、ワインぶどうという新たな農産物を栽培する挑戦は、地域の農林水産業の刺激となり、その発展に寄与。

## 未来を耕す

- ワインぶどう栽培・ワイン醸造の期間は3月～11月のため、さつまいも収穫、干し芋加工も組み合わせる年間を通じた仕事のサイクルを設計。
- 真珠貝の貝殻パウダーや廃棄貝肉を譲ってもらい発酵させ、たい肥化し、ほ場に散布することで、地域企業と連携した「ごみゼロ計画」に貢献。

## 基本情報

設立:H25年/農福連携取組開始:H29年

## 取組

## 主力商品

(農作物)醸造用ぶどう、さつまいも、ブルーベリー  
(加工品)ワイン、干し芋、ブルーベリージャム

## 概要

## 株式会社ケアプロフェッショナル

- ・高齢者リハビリ施設(みんなの家 三重県下6事業所)
- ・障害児リハビリ施設(放課後の家 三重県下4事業所)
- ・就労継続支援B型施設(ジヨブスタジオ伊勢)
- ・伊勢ワイン(株)(ジヨブスタジオ伊勢の完全子会社)  
※伊勢ワイン(株):国税庁よりワイン醸造免許取得(酒販含む)
- ・伊勢ワイナリー(株)(ジヨブスタジオ伊勢の完全子会社)  
※伊勢ワイナリー(株):三重県認定事業者に指定

## 体制図

## 成果

## 平均工賃月額

12,000円(R3)  
→18,000円(R5)

## 障害者数

2人(H29)  
→11人(R5)

## 作付け本数

120本(H29)  
→4,100本(R5)

## 農地面積

0.08ha(H29)  
→1ha(R5)

- 農福連携がきっかけで伊勢市とワイン発祥の地ジョージアとの交流に発展。
- すべて自社栽培・自社製造のため、個々の持つ障害特性に応じて仕事を選択でき、幅広い障害者の活躍の場と能力開発の機会を創出。
- ワインぶどう栽培は新聞等で「農福連携による初の純伊勢産ワイン」として取り上げられ、農業者から農福連携の相談を多数受けるなど、農福連携の輪が拡大。

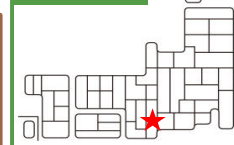
080-4814-8395/iwasaki@care-pro.co.jp

<http://care-pro.co.jp/>

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

様々な関係者と連携して農林水産業の多様な仕事を農福連携等で請け負い、年間を通して作業を確保。生きづらさや働きづらさを抱えた障害者や引きこもり、生活困窮者等の地域における居場所作りに貢献。

## 福祉事業所

三重県  
紀北町

## きっかけ

R2年

支援を望む農家など地域の声に対し、就労により収入を得て自立したい障害者や生活困窮者の声があったことから、双方の課題解決を図ることを目指して活動を開始。

## 人を耕す

- 地域の農業・林業・水産業の多様な仕事を請け負うことで、個人の特性に応じた仕事を年間を通して振り分けることが可能。
- 個人の作業習熟度に合わせて、ハウス管理を一任したり、しめ縄づくりの担当者としてたり、新規入所者の指導を任せたりと、責任をもって仕事ができる環境を整備。

## 地域を耕す

- 日本農業遺産である尾鷲ヒノキ林業の維持のため、スマッジづくりやヒノキオイル、ヒノキ石鹸づくりを通じて新たな需要の開拓に向けた取組を実施。
- 県内のカキ養殖のロープ補修など、地域内外の関係者と連携して取り組み、水産業の維持に貢献。
- 地元の小学校と連携して、田植えや収穫、カカシ作り体験を実施し地域との関係性を構築。

## 未来を耕す

- 地域の農林水産業の維持を図るため、生活困窮者や引きこもりの方など多様な人が様々な作業に携わり、双方の課題の解決を図りながら地域産業の維持に貢献。
- ヒノキの葉のスマッジ・オイル・石鹸への加工など、室内での作業が必須の障害者等にとっても取り組みやすい作業を確保。

## 取組

## 成果

## 基本情報

設立:R2年 / 農福連携取組開始:R2年

取得認証等:認定農業者(R5年)

## 主力商品

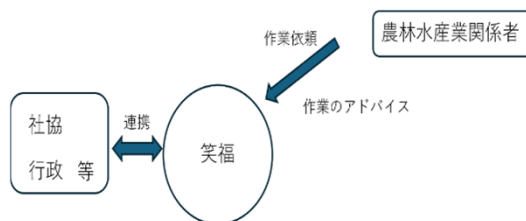
(農作物)いちご、米  
(加工品)スマッジ、ヒノキオイル、ヒノキ石鹸

## 特徴的な取組

林福連携(ヒノキを使った加工品)、水福連携

## 概要

## 体制図



住所:三重県北牟婁郡紀北町馬瀬390-2

TEL:0597-31-0294

Mail:umaze.fuku@gmail.com

## 受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

## 平均給与月額

10,000円(R2)  
→25,000円(R6)

## 障害者数

3人(R2)  
→7人(R6)

## 農地面積

0.6ha(R2)  
→6.0ha(R6)

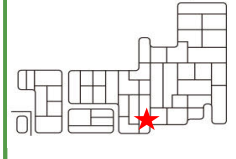
- 同じ作業を皆で行うため、自然と良好な関係性が構築され、相互理解が促されている。
- 取組開始当時は半日勤務で1万円ほどの月給だったが、R6年は2万5千円に増加。
- ひきこもりである者には、個人の特性に合わせて、しめ縄づくりやヒノキ加工等の内職に取り組んでもらうことにより、ひきこもりからの脱却につなげている。
- 荒廃農地の活用は60aから600aまで拡大し、農地の維持と地域農業の維持に貢献。

# 株式会社アクアス 就労移行 就労継続支援B型事業所コラボ(三重県鳥羽市)

漁業関係者及び研究機関と連携し、カキ養殖用ロープの釘抜き、海藻の種苗生産作業などを実施。利用者が地域の基幹産業の一つである養殖業の工程に関与することで、地域とのつながり・働きがいを実感。

## 福祉事業所

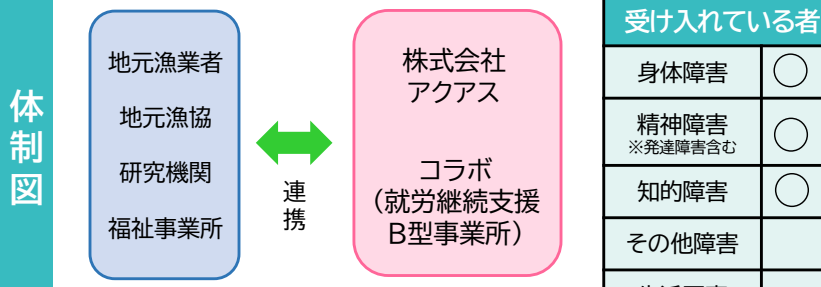
三重県  
鳥羽市



## 基本情報

設立:H29年/水福連携取組開始:H30年

- 概要**
- 主な作業内容**
- カキ養殖用ロープの釘抜き
- その他作業内容**
- カキ天然採苗用コレクター作製
  - 黒ノリの種苗生産に使うカキ殻並べ
  - 黒ノリの品質検査 など



住所:三重県鳥羽市鳥羽5丁目10-1  
 TEL:0599-37-7175  
 Mail:info@aquas-inc.net

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	○

## きっかけ

H30年  
 利用者の就労機会の創出をめざし取り組む中、以前から市内の社会福祉協議会と漁業関係者の間で行われていた水福連携に着目し、取組を開始。

## 人を耕す

- 県が実施する「水産業ジョブトレーナー」の育成研修を受講した職員による作業ごとの手順の検討、利用者の適性に合わせた作業選定・作業指導を実施。
- 職員が作業を一方向的に指導するだけでなく、以前から水産業に携わっていた障害者の経験を活かすことにより、利用者同士で教え合える環境を創出。

## 地域を耕す

- 資材価格の高騰により、漁業者の中でカキ養殖用ロープを再利用する動きが広がっている中、ロープの釘抜き作業を受注することで漁業者の経費削減に寄与し、地域水産業の維持に貢献。
- R6年から医療従事者をめざす県内の大学生を受け入れて、利用者と一緒に水福連携の作業を行う作業体験会を実施。

## 未来を耕す

- カキ養殖用ロープ釘抜き作業に取り組む複数の福祉事業所の実情を取りまとめた上で、ジョブトレーナー自らが漁業者に必要経費等の実情を伝え、地域の作業単価向上に貢献。
- 県が実施する「水福連携コーディネーター」の育成研修を受講した職員を中心に、作業要望の多い養殖用ロープ作業を市外の福祉事業所にも働きかけることで、県内における水福連携を推進。

## 取組

水福連携作業従事者数 (延べ人数)	釘抜き作業単価 (ロープ1本あたり)	釘抜き本数
7人(H30) →17人(R6)	21円(R2) →25円(R6)	7,350本(R2) →12,500本(R6)

## 成果

- 地元漁業者との交流が増加したことにより、利用者地域とのつながる機会を創出。
- 複数の水福連携の作業を実施することで利用者の工賃が向上。
- 近隣の福祉事業所と連携することで、漁業関係者から大量に依頼される作業にも対応。
- カキ養殖用ロープ釘抜き作業については市内外で波及し、R7年3月末時点で鳥羽市を含む5市町の福祉事業所で作業を実施。